



平成16年 広報

にかほ

編集・発行 / 秋田県仁賀保町役場

5/1

No. 1377
毎月1日・15日発行



今月の主な内容

ごみ減らしましょう	P 2 ~ 5
仁賀保の半世紀「学び舎」	P 7
まちの話題 / 入学式ほか	P 8 ~ 9
佐々木尚 ^{たかし} さんの笑顔に会いたい	P 11
暮らしの情報	P 14 ~ 15

はじめての給食

入学式、学校までの道のり、そして新しいお友だち。一年生にとって4月はドキドキの初体験の連続。

4月13日の平沢小学校、初めての給食はカレーライスでした。みんなで準備してみんなで食べるとおいしいね。



ごみ減らしましょう



ご存知ですか？
ごみの行方

家庭からごみステーションに出されたごみ。これらのごみの行方を、皆さんは考えたことがありますか。

ごみステーションがカラになっても、捨てたごみが消えてゼロになるわけではありません。焼却してもその灰は残り、資源ごみも品質が悪いとリサイクルされず再びごみになる場合もあります。これらはすべて、最終的には埋め立て処分されるのです。

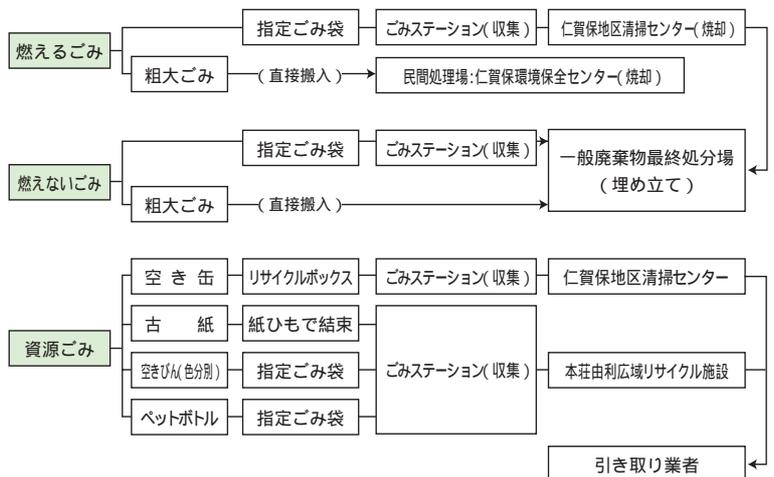
仁賀保町のごみ処理の概要は【図-1】のとおりです。自分が出したごみが、どこでどのように処理されているかを知ることが、「なぜごみを減らさなければならぬのか」「なぜ手間をかけて分別しなければならないのか」を理解する第一歩となるはずです。



最終処分場
限りある埋め立て容量

最終処分場は、文字どおり地域のごみが最後に行き着く場所。そこに持ち込まれるごみを見れば、そこに至るまでの行政のごみ処理体制や、ごみ排出者（事業者や住民）のモラルなど、地域全体のごみ処理への姿勢が分かると言っても過言ではありません。

【図-1】ごみ処理の概要



従来は浜中処分場（両前寺）のとなりに完成した一般廃棄物最終処分場では、五月六日からごみの受け入れを開始します。

新しい処分場は、安全にごみを埋め立てるために、多額の費用をかけて最新の技術を投入した施設です。その限りある埋め立てスペースを有効に活用するためには、行政、事業者、住民がそれぞれの立場で、ごみの減量化に努める必要があります。



ごみは減っていますか？
思いますか？

皆さんは、最近ご自分の家庭から出るごみの量をどう感じていますか。「分別も細かくなったりリサイクルも進んだから、かなり減っているのでは」とお考えになる方も多いのではないのでしょうか。

3ページ【図-2】のとおり、わが町のごみの全体量は、平成十一年度を境に大きく減少していますが、これは最終処分場において



◀今後15年間、仁賀保・西目両町の不燃ごみを埋め立てる一般廃棄物最終処分場

知っているようで知らなかった わが町の現状

事業系ごみの持ち込み規制を強化したことによるもの。家庭からごみステーションに出されるごみに限れば、その量はほぼ横ばいで、リサイクルされる資源ごみの量を差し引けば若干の減少傾向にあります。

平成十四年度の年間ごみ処理量を町内の一世帯あたりに換算すると、約一、三四一キログラム。人口一人あたり一日に出すごみの量は全国平均とほぼ同じ約一・一キログラムとなっています。

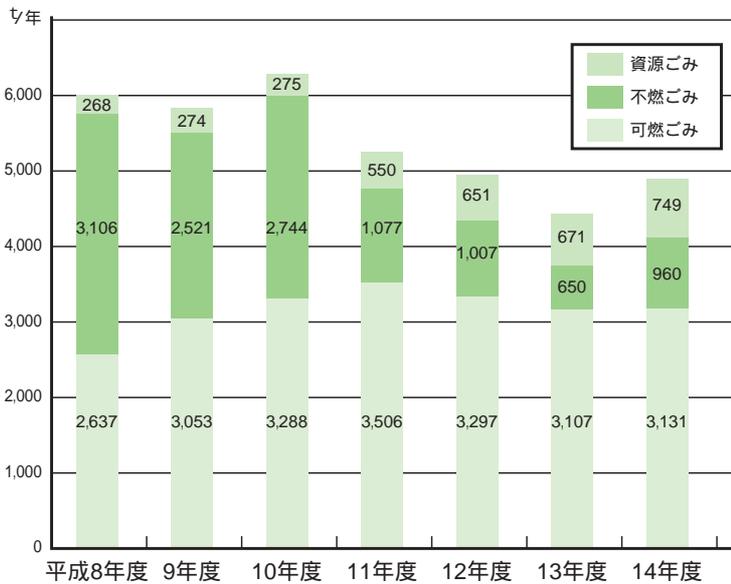
これらの数値を目にしても、多いのか少ないのか、なかなかピンとこないかもしれません。ごみの収集日、試しにご家庭から出たごみの重さを測ってみてはいかがでしょうか。



ごみ質に見る ライフスタイルの変化

家庭で毎日のように発生するものが「燃えるごみ」。そのごみの中身も時代とともに変化してきました。

仁賀保地区清掃センターで焼却処理されるごみ質を見てみると、一番多いのは半分近くを占める紙・布類ですが、最近では古紙のリサイクルの実施により減少傾向にあります。



【図 - 2】ごみ処理量の推移

逆に増加しているのはプラスチック類で、レジ袋や食品トレー、ボトルなど、プラスチック製の容器包装を多用した大量消費型のライフスタイルを象徴していると言えます。

このような生活様式の変化は、資源ごみの回収量を見ても明らかで、空き缶・空きびん・古紙類がほぼ横ばいに推移しているのに対し、ペットボトルの回収量が増加し、資源ごみ全体の微増傾向につながっています。



ごみ処理には お金がかかる！

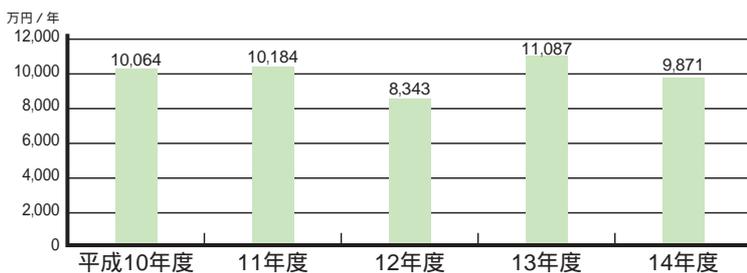
ごみステーションや処分場に持ち込めば、いつの間にか回収・処理されているごみですが、それらの処理には年間約九千九百万円の費用がかかっています（平成十四年度実績）。

町内の一世帯分のごみ処理に、年間約二万七千円の経費がかかっていることになり、これは人口一人あたりに換算すると年間約八

その一世帯のごみを処理するのに年間**27,000円**かかるんだって



一世帯あたり一年間で**1,341kg**のごみを出しているんだよ



【図 - 3】ごみ処理経費の推移

千二百円となります。

これらの金額は通常のごみ処理にかかる経費ですので、これに前述の一般廃棄物最終処分場をはじめとする施設の建設費等を含めると、その金額はさらに膨らみます。

ごみ処理に多額の費用がかかるのは全国の自治体に共通の悩みで、ごみを多く出す人にはより多くの負担をせよと、有料でごみ収集を行う自治体も増えてい

ごみ減らしましょう 声

家で手軽に 生ごみを処理

二年前に町の助成を受けて、電動式の生ごみ処理機器を購入した中川貞子さん（室沢）



お孫さんといっしょに畑で

「夫と二人暮らし。生ごみはその日のうちか、遅くとも翌日の朝には機械に入れてスイッチをオン。3〜4時間で肥料になります。遠出して家を空けるときも安心。特に夏場の衛生面では助かっています。収集日に出すごみが軽くなりましたね。電気代も気にならない程度です。」

出来た肥料は、自宅のとなりの小さな畑で使っています。花にはふるいにかけてから使うといいようです。形が残っている野菜なども、何度も機械に戻して処理すると細かくなりますよ。」

生ごみ処理機器設置助成事業
家庭ごみの減量化を支援するため、生ごみ処理機器を購入する町民に対して、購入費用の1/3（二万円を限度）を町が助成しています。

平成十二年度からは、室内でも手軽に利用できる電動式の生ごみ処理機器を対象に加えたところ、四年間で百三十八人の方が購入。助成総額は約二百五十万円となっています。

制度についてのお問合せは、福祉課保健衛生係（スマイル内 ☎3008）へお気軽にどうぞ。

ごみ減量は 商品選びから

マックスバリュ東北株式会社
にかほ店 店長 守屋 清さん

当店では、家庭でのごみとなるレジ袋を減らすために、買い物袋を持参された方には特典を用意しています。また、売り場から商品を入れたまま持ち帰ることができる「買い物カゴ・マイバスケット」も販売しており、にかほ店でも多くの方々にご利用いただいています。牛乳パックやアルミ缶、食品ト

レーなどの店頭回収もかなり定着してきましたが、何よりも販売の段階で余分な容器や包装を省くのが第一と考え、食品などは出来るだけバラ売り、はかり売りしていただきます。必要な量をお求めいただけるので、家庭での食品ごみも減るのではないのでしょうか。

しかし食品の中には、容器に入れないと、おいしそうに見えないものもあるなど、容器包装の簡素化と売り上げが両立しない一面もあります。環境への配慮をご理解いただき、見た目や便利さに流されない商品選びが習慣化されれば、



すっかり定着した店頭回収。この日もボックスはすぐ満杯になっていました。

家庭でごみになる容器や包装を売り場からもっと減らすことができます。

ご協力お願いします ごみ処理の現場から

燃えるごみ

衣類や、長いものは50cm以下に切断して出してください。

次のものは「燃えないごみ」として収集します。

- 貝殻・プラスチックの灯油缶
- カセットテープやビデオテープ
- 次のものは、ごみステーションに出さずに民間処理場（仁賀保環境保全センター）へ持ち込みを。
- 木の枝や幹、せん定した庭木類
- 布団、毛布、マットレス、じゅうたん、カーペット類

びん類

キャップをはずしてください。割れびんは「燃えないごみ」へ、ビールびんや一升びんは販売店に引き取ってもらってください。

ペットボトル

リサイクルするのは、企のマークがあるものだけ。それ以外の塩ビボトル等は「燃えるごみ」へ。キャップをはずしてください。食品用以外の容器（洗剤、シャンプー、化粧品、医薬品等）を混ぜないでください。

カビが付かないよう水洗いを。ごみ出しは、収集日の朝8時までに「ごみステーション」へ！

家庭で始めるごみダイエット

ごみを減らすための3R「R」

「ごみを減らす」と思ったら、まず思いつくのが「リサイクル」...だと思いますが、ごみダイエットの優先順位では、実はリサイクルは三番目なのです。

「ごみを減らすためのキーワードは「3R」。リデュース(ごみの発生抑制)・リユース(再利用)・リサイクル(再生利用)」という、三つの「R」で始まる行動です。



▶消費者の会が開いているフリーマーケット。問合せ先 仁賀保町消費者の会事務局(役場民生課☎303036)

Reduce

ごみになるものを減らす

ごみの出ない買い物

買い物には、マイバッグを持参してレジ袋や過剰な包装は断りましょう。

生鮮食品はトレーやパックに入ったものではなくバラ売りのものを、洗剤やシャンプーなどは詰め替え商品を選びましょう。

Reuse

繰り返し使う

不要になったものは他人へ

不要になった家具や家電、本、CD、衣類、生活雑貨などは他に使ってくれる人がいないか探してみましょう。身近にいない場合は、リサイクルショップや古本屋に持ち込んだり、フリーマーケットに出店する方法もあります。

リターナブルびんを活用

飲み物を購入するなら、ペットボトルや缶よりも、再使用できる「リターナブルびん」のものを選

びましょう。例えば、缶ビールをびんビールに代えてみる、それだけで家庭ごみが一つ減ります。

Recycle

資源として使う

再生品や環境配慮品を利用

リサイクルは、資源ごみを分別して出したら終わりではありません。再生品を私たち消費者がもう一度利用して、初めて資源の循環の輪がつかがるのです。

商品を選ぶ際は、左図の各マークを参考に、再生品や環境配慮商品を積極的に購入し利用するよう心がけましょう。

	エコマーク 環境への負担が少なく、環境保全に役立つと認定された商品に表示されるもの。
	グリーンマーク 古紙を再生利用した製品であることを表すマーク。
	Rマーク(再生紙) 再生紙であることを表すマーク。Rの隣の数字は古紙の配合率を示すもの。
	PETボトルリサイクル推奨マーク ペットボトルの再利用品に表示されています。
	牛乳パックリサイクルマーク 回収された牛乳パックを再生利用したトイレットペーパーなどに表示されています。

家庭で、地域で、学校で 子どもたちへの環境教育を

環境保護のためにするべきことを頭では分かっている、いざ実践となると、便利さや慣れた生活をそのままに換えられないかもしれない。無理をせず、出来ることを継続して実践するのがよいでしょう。

ほんの十年ほど前、わが町のごみの分別は「燃えるごみ」と「燃えないごみ」の二種類だけでした。それが今や、どこの家庭でも当たり前に何種類もの資源ごみの分別が行われているのです。習慣付けは大切です。

町では、小・中学生に環境保護への関心を高めてもらうと、「ごみ減量化・リサイクル促進ポスターコンクール」を開いています。また、教育委員会で作成した小学生向けの副読本に町内のごみ処理の状況を掲載して、社会科の学習で活用してもらっています。子どもたちへの環境教育は、長い目で見た社会全体への習慣付け、便利さばかりに流されず、社会のことを考えて行動できるような心を育てていきたいものです。

「国体推進係」を設置 準備いよいよ本格化

「秋田わか杉国体」の開催を3年後に控え、町では今年度新たに社会教育課（公民館内）に「国体推進係」を設けました。

今後は、県をはじめ同じくサッカー競技会場となる秋田市・金浦町・西目町との連絡調整を図りながら、本大会に向けての本格的な準備に入ります。

平成17年にミニ国体 18年にはりハーサル大会

「秋田わか杉国体」は、今年度中に正式な開催決定がなされ、会期も決まる予定ですが、現行の夏季・秋季大会が統一されますので、9月下旬から10月上旬頃の会期となることが予想されます。

平成17年には東北総合体育大会（ミニ国体）が秋田県で開催され、サッカー競技の成年男子・成年女子・少年男子の3種別すべてが当該地域で行なわれることで内定しています。

また、18年には全国社会人サッカー選手権大会（国体りハーサル大会）が開催されます。

こうしたプレ大会を通じて、競技会運営のノウハウを得ながら、本大会に向けて地域の盛り上げを図ることにしています。



昨年の山崎杯での熱戦

TOPIC

シーズン開幕！ご声援を

TDK3連覇に向けて始動 第28回東北社会人サッカーリーグ

5月2日(日) 10:30キックオフ
TDK 対 足利工務店河辺FC
5月9日(日) 10:30キックオフ
TDK 対 新日鉄釜石

将来の日本代表を目指して 第5回TDK山崎貞一杯争奪 少年サッカー選手権大会

5月3日(月)～5日(水)

上記の大会会場はすべてTDK秋田総合スポーツセンター（金浦町）です。

国体に関することは...
社会教育課国体推進係
(町公民館内) ☎373121

吹く風もやさしく、新緑もやわらかく輝いている。
お元気で過ごしてでしょうか。
さて、かねてから工事中であった四つの事業が完成し、四月二十八日に合同の竣工式を行った。
その一つは、「一般廃棄物最終処分場」である。
これは西目町と一緒に平成十四年度から二ヶ年事業で工事を進めてきたもので、年度から二ヶ年事業で工事を進めてきたもので、環境保全と公害防止を最優先した近代的な施設の竣工である。
二つ目は、「町道平沢・小出二号線」である。
これは、平成十三年度から三ヶ年事業で工事を進めてきたもので、県道上郷仁賀保線と小出金浦線に接続し、町の南北を縦断する基幹道路であり、車道と歩道の拡幅を始め、橋の架け替えや、急カーブの緩和、防風雪柵の設置などの改良工事の竣工である。
三つ目の事業は、「横根浄水場」である。

こんにちは
お元気ですか

町長 巴 徳雄

これは、平成十三年度から二ヶ年事業で工事を進めてきたものであり、「より安全でおいしい水」を供給するための高度な水処理施設の竣工である。
四つ目の事業は「武道館」である。

以前から要望のあった施設であるが、このたびTDKのご厚意により旧琴浦工場の集会所を譲り受け、平成十五年事業として工事を進めてきたもので、武道の練習はもちろん、多目的に利用することも出来るよう整備した施設の竣工である。

国、県、並びに関係各機関のご支援と関係各位のご協力に深く感謝を申し上げますとともに、みんなで完成をよろこび、大切に管理運営をしていきたいと思っています。

お元気で

